

平成 21 年度 第 5 回 経済学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事録

- I. 日時：平成 21 年 11 月 6 日（金）午後 1 時から 15 時 40 分まで
- II. 場所：社団法人私立大学情報教育協会会議室
- III. 出席者：林委員長，望月委員，山田委員，渡邊委員，井端事務局長，恩田

検討事項

1. 学士力の詳細設計について

初めに事務局より，前回委員会で確定した「経済学学士力(案)」に対して，インターネットで 644 名のサイバーFD 委員に意見募集した結果，56 名から回答があったことが報告された(回答率は 8.6%)。

これら回答を頂いた全ての意見に対して，原案に反映させるべきか否かを丁寧に検討し，原案を改訂する作業を行った。改訂点については，次頁以降の赤字下線部分，またこれに至った検討事項を脚注に示す。なお，脚注の()内の数字は，サイバーFD 委員からの回答意見番号である。

これをインターネットの意見反映済み「経済学教育の学士力」として確定した。これは，11 月に開催される理事会に上程される。

なお，今後は，今回確定した「学士力」を実現するための情報活用能力，経済学における情報教育の到達目標などについて(情報活用力を経済学教育(学習)の中でどう用いるかなど)検討していく予定。

2. 宿題

上記のような今後の検討課題でのたたき台を作成する(学生が身につけるべき経済学教育に特化した情報活用の案など)。形式は自由，箇条書きでも可。次回委員会までに ML に投稿。

3. 次回の委員会

12 月 26 日(土) 午前 10 時 30 分から午後 0 時 30 分まで。

【到達目標】

1. 日常の経済現象¹や経済全体の基礎的な考え方²や理論を理解できる。

【コアカリキュラムのイメージ】

経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学など

【到達度】

- ① 身の回りから国や世界の経済現象について関心を持ち、深めることができる。
- ② 基礎的な経済用語を理解し、³経済現象の動きや仕組みを相互依存関係として理解できる。
- ③ 経済現象を他者にわかりやすく説明できる。

【測定方法】

- ①は、経済用語や経済現象に関する関心を質疑応答やアンケートなどにより確認する。
- ②は、経済理論に関する理解を小テストや定期試験、外部試験⁴などで確認する。
- ③は、レポートやプレゼンテーションなどにより確認する。

¹ 概念を広げて、「経済生活」を「経済現象」に変更

² 経済学的な考え方に習熟し、理論的な思考力を練る点を強調(29)

³ 経済現象に加え、用語・概念についても追加. 用語理解を踏まえることを強調(44)

⁴ 概念を広げ、経済学検定等の外部試験も考慮(18)

【到達目標】

2. 経済の歴史や制度を理解し、資料を援用して、⁵経済情勢を分析する⁶ことができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

経済史入門、各国の基礎的な経済史や経済論など

【到達度】

- ① 経済の歴史や制度に関心を持つことができる。
- ② 資料を用いて⁷過去の経済現象の流れを理解し、⁸現実の経済情勢を分析できる⁹。
- ③ 歴史を踏まえて今の経済現象を他者に説明できる。

【測定方法】

- ①は、歴史的事象に関する関心を質疑応答やアンケートなどにより確認する。
- ②は、経済の歴史や制度、経済情勢に関する理解を小テストや定期試験、外部試験¹⁰などで確認する。
- ③は、レポートやプレゼンテーションなどにより確認する。

⁵ 「今日の経済情勢」の「今日」を削除し、過去から今日のように時間的拡張を強調。過去を観察し、未来を構想し、現在の指針を探ることを加味(16)

⁶ 「考える」だけでなく、「分析」まで概念を広げる(13)

⁷ 資料収集・整理に関する能力を追加(44)

⁸ 歴史や制度について体系的に説明できることが重要なので、「流れ」によってこの点を強調(28)

⁹ 到達目標の「分析することができる」変更に合わせて変更

¹⁰ 概念を広げ、経済学検定等の外部試験も考慮(18)

【到達目標】

3. 経済政策の基礎的な用語や考え方を理解し、経済政策の重要性を理解できる。¹¹

【コアカリキュラムのイメージ】

経済政策(国内外)¹²など

【到達度】

- ① 身近な経済生活に影響を与える政府の政策に対して関心を持つことができる。
- ② 経済政策の種類と効果および政府と民間の役割など¹³を理解できる。
- ③ 経済政策について他者に説明できる。

【測定方法】

- ①は、経済政策に関する関心を質疑応答やアンケートなどにより確認する。
- ②は、経済政策に関する理解を小テストや定期試験、外部試験¹⁴などで確認する。
- ③は、レポートやプレゼンテーションなどにより確認する。

¹¹ 「知識を理解」では日本語的に不適切であること、また用語や考え方、さらには経済政策の重要性に理解に概念を広げる(13)

¹² 日本国内のみに限定するのではなく、外国にも概念を広げる(18)

¹³ 政府だけでなく、民間も追加して概念を広げる(44)

¹⁴ 概念を広げ、経済学検定等の外部試験も考慮(18)

【到達目標】

4. 経済データの意味を理解し、必要なデータを収集・整理して、統計的な処理ができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

経済統計、統計学¹⁵など

【到達度】

- ① 経済現象の理解に必要な基本的な経済指標やデータに関心を持つことができる。
- ② 統計の理論や技法¹⁶の基礎を理解し、基本的な統計の情報収集と処理ができる。
- ③ 統計データに基づいて相関関係などの処理結果を¹⁷他者に説明できる。

【測定方法】

- ①は、基本的経済データのその意味や水準を理解している¹⁸か、質疑応答やアンケートなどにより確認する。
- ②は、経済統計の理論や処理に関する理解を小テストや定期試験、外部試験¹⁹などで確認する。
- ③は、レポートやプレゼンテーションなどにより確認する。

¹⁵ 「計量経済学」という意見もあったが、コアカリにはなじまないことから、代替的に「統計学」を追加(44)

¹⁶ 「理論」のみならず「技法」も追加(18)

¹⁷ 原案の「経済現象を説明」は、難易度が高いので「処理結果を説明」として難易度を下げる(22)

¹⁸ データの水準を知っていることに加え、データの意味を知っていることが重要なので追加(23)

¹⁹ 概念を広げ、経済学検定等の外部試験も考慮(18)

【到達目標】

5. 経済学の知識を統合して、倫理と公共性と責任感を持ち、グローバルな観点から²⁰判断できる。

【コアカリキュラムのイメージ】

経済倫理、開発経済論、世界経済、環境経済、²¹演習など

【到達度】

- ① 経済効率と倫理(コンプライアンス、公共性、公平性)とのバランスに配慮することができ²²
きる。
- ② 経済学の学習成果を総合的に活用し、経済問題を世界の観点から²³考えることができる。
- ③ 経済学の考え方を基礎にして責任ある選択や意思決定ができる。

【測定方法】

- ①と②は、論述式のレポートや要点整理のプレゼンテーションで確認する。
- ③は、少人数授業や演習における討論²⁴、研究発表、卒業論文などで確認する。

²⁰ 原案の「社会の一員」を「21世紀型市民」と位置づけ、倫理・公共性・グローバル化への対応を追加

²¹ 到達目標の変更に合わせ、具体的な科目名を追加

²² 到達目標の変更に合わせ変更

²³ 到達目標の変更に合わせ変更

²⁴ 概念を広げ、討論も追加